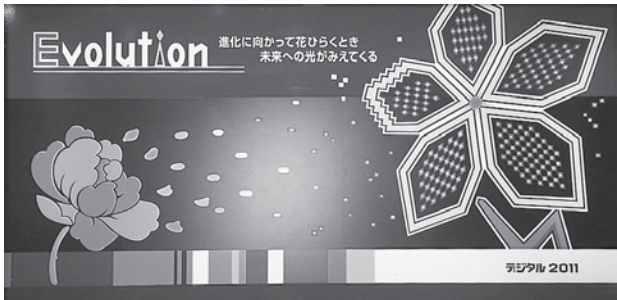


第26回技能グランプリ参加作品一覧



1 位・内閣総理大臣賞・金賞 鎌田朝美(青森・㈱エーアイサイン)



2 位・銀賞 河戸一浩 (三重・アイボックKOTO-YA)



3 位・銅賞 高嶋一郎 (愛知・㈱日邦工芸)



敢闘賞 洞澤知之 (兵庫・HORA SIGN)



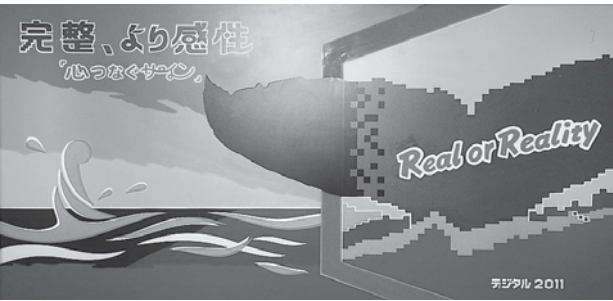
優秀賞 浅水屋美枝 (神奈川・浅水屋カンパン店)



優秀賞 片山美和子 (大阪・㈱アド毎広)



内山将 (静岡・㈱宣美)



福岡宗男 (沖縄・福田工芸)



清水源吾 (千葉・㈱清工舎)

審査講評

競技委員

田仲俊夫

二〇一一年三月四日より七日までの四日間にわたって開催された第二十

六回技能グランプリは建築大工、婦人服、旋盤、フラワー装飾など二十六職種の競技が千葉の幕張メッセにて行われました。

【課題とテーマ】サイズ九〇〇×一八〇〇内照式広告板を、二日間十時間で仕上げる。課題テーマは「デジタル世界」、総てデ

ジタル化の中で生きているような便利な現代、しかし失われるものへの危惧、それに対して今後どう生きるか、各々の主張を明らかにした広告板を制作する。

主張を示すロゴタイプ化したタイトルを考え、それを説明するコピーを作成しレイアウトすること。課題の要旨です。

今回、課題を良く理解せずタイトルとコピー文字に限られている原寸原稿を図柄まで用意して持参した選手があり、これは許されぬことなので参考資料 A3 一枚に分解トレイスして収めるよう指示し競技に何とか間に合わせたハプニングがありました。

今回の作品に見るタイトルはテーマをそのまま英語表記した「Digital World」、一点の他「Evolution」など五点が英語、「クリエイティブ革命」など四点が和文表記でした。一部ロゴタイプ化されていないものもありました。

コピーは一寸意味不明確なもの、タイトルのようなものがありました。

【色彩と画面構成】例年通りブルー系の背景が多い作品の中で色遣いが難しいピンクをベースにした浅水屋さんの作品は女性らしいソフトな感性を表わしていました。三位銅賞のホワイトをベースにした作品は無彩色と有彩色の対比を生かし効果を上げています。二位銀賞の作品は有彩色にブラックを効果的に対比させサインデザインとして優れています。

「画面構成」ではデザインの一手法であるクロップアップ効果、オーバーラップ効果を上手く使うと訴求性が高まります。其々に工夫が見られ、一位金賞の作品ではアナログ的花からの花びらが右へ散り広がりクロップアップされたデジタルフラワーと共に効果的な表現となっています。一見して陽気な沖縄をイメージさせる福田氏の作品は人間の感性を鋭敏なセンサーを備える鯨にコノートしその尾びれをクロップアップしてデジタル化社会の中で人間の感性回帰を表現しています。

【素材効果】サインにとつて素材の活かし方は重要です。以前、予想外のシートの使い方、シートを縮緬状に手の平で圧縮し一部立体的に仕上げた作品がありました。今回、

品となりました。今回の競技で最も個性的な作品、素材のフォグラスをホワイトのベースで活かしハイセンスな質感を演出しました。モザイクや分子調パターン等加工量も多い作品を手早く仕上げたテクニクは高度なレベルです。ただしリアルな現実を、皮剥く図柄で、円く見えるべき皮が角になってしまった点が惜しまれます。

高嶋一郎氏

タイトルは ANALOG と DIGITAL をオーバーラップさせてアナログ側に刷毛とペイント、デジタル側に数字と DVD を天秤に乗せバランスを取っているデザイン。天秤の表現と刷毛ペイントのデザインはもう一歩ですが、アイデアは良く、この点と色彩の工夫で、技能は優秀ですから更に上位を目指せる作品です。

洞澤知之氏

浅水屋美枝さん

ピンクの地色を上手く活かし、ほのぼのとした作品です。便利なデジタル社会に希望を託しミニ等をもモチーフにシンプルなデザインで好感が持てます。技能レベルは高いのですが、主張が平凡で強い意志が伝わらなかったことは残念です。

片山美和子さん

課題の理解を一部誤った為、下図チェック時、用意して来た原寸原稿が迅速な加工が要求され、従って終盤には雑な仕上げとなってしまいました。表貼りと裏貼りにもう一工夫があると更に良い作

大きなリスクを克服し時間内に仕上げた努力は称賛に値します。また加工技能も手早く優れております。女性らしい心とむデザインですがアピール性は弱いようです。

内山将氏

デジタル化で夢が大きく広がる社会を創造革命として、デジカメのファインダーから未来を見つめ想像するという発想はユニークで評価出来ます。ファインダーに写る画像が抽象的なと、タイトルのロゴタイプは未来をイメージするにはクラシク過ぎるようです。

福田宗男氏

沖縄県人らしい躍動感ある明るい作品で前文で述べた特色を備えています。しかしタイトルの「完整、より感性」は用語的に違和感があるようです。

清水源吾氏

七五歳での技能グランプリヘチャレンジ、常人では難しいと思います。下図デザインは緻密で立派なものです。その分、シート加工で時間内に仕上げるのも大変でした。タイトル文字がロゴタイプ化されていませんでした。

【終わりに】

今回は日広連表彰式に参加選手全員が出席し、その後アィスカッションをするという熱心さでした。次の参加者を勧誘する為にも現参加者が技能競技を通じての感激感動を味わうチャンスを与えられればと痛感しました。それには業界人が当大会への理解を深めて頂くことが必須だと思います。